

付着生物ラーバ情報

秋から冬生まれのムラサキイガイ ラーバはほとんど付着しません

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは久栗坂沖で10月26日に1.1個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で10月26日に5.8個体/m³、11月1日に8.3個体/m³、久栗坂沖で10月26日に3.9個体/m³、11月7日に7.8個体/m³、野辺地沖で10月26日に81.3個体/m³、11月1日に89.1個体/m³、川内沖で10月27日に25.0個体/m³、11月1日に35.2個体/m³見られました (表1、図3)。

(3) その他

キヌマトイガイ、サンカクフジツボのラーバは見られませんでした (表1)。

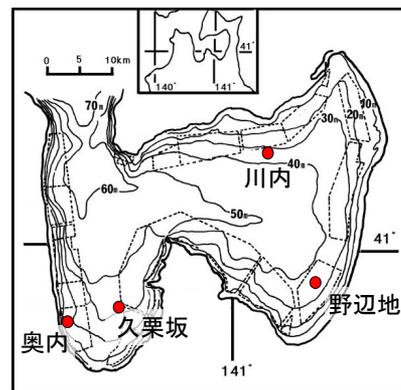


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位: 個体/m ³				
		ユウレイボヤ	サラボヤ	ムラサキイガイ	キヌマトイガイ	サンカクフジツボ
奥内沖	R4.10.26	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0
	R4.11.1	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
久栗坂沖	R4.10.26	1.1	0.0	3.9	0.0	0.0
	R4.11.7	0.0	0.0	7.8	0.0	0.0
野辺地沖	R4.10.26	0.0	0.0	81.3	0.0	0.0
	R4.11.1	0.0	0.0	89.1	0.0	0.0
川内沖	R4.10.27	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	R4.11.7	0.0	0.8	35.2	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは例年10月～12月にラーバが出現します。今季はまだ本格的に出現していませんが、久栗坂沖でわずかながら見られています。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、**ラーバが出現する可能性がある**ので親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**ることが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバが増加していますが、**秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどない**ことが分かっています。

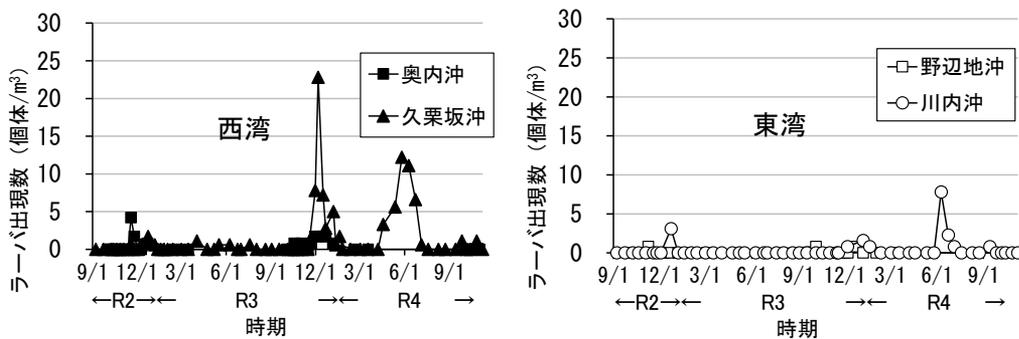


図2 ヲウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和2年9月～令和4年11月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

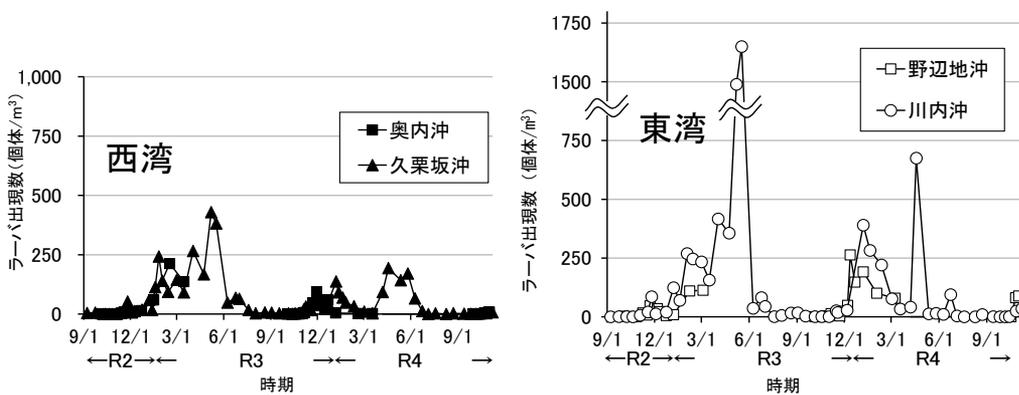


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移 (令和2年9月～令和4年11月)

・平成27年の観察開始から現在までの最大値：西湾 417個体/m³、東湾 1,650個体/m³

